

10分  
短縮

社員名簿で入社年月日から勤続年月を求めるとき、ひとりずつ計算していくと、時間もかかり計算ミスも起こりがちです。また、勤続年月を更新していく手間もかかります。このようなときは、日付が入力されているセルを使うと、勤続年月を求めることができます。

日付を入力すると、日付の表示形式が自動的に設定され、セルには「シリアル値」と呼ばれる数値が格納されます。そのため、日付のセル同士を使って計算ができます。しかし、2つのセルを単に減算したのでは、日数の差が算出されるだけです。日付と日付の間の年数や月数、日数を求める場合は、「DATEDIF関数」を使います。DATEDIF関数では、単位を指定して日付と日付の差を表示することができます。

また、DATEDIF関数を使って求めた値を「〇年〇か月」といったように1つのセルに表示させるには、「CONCATENATE関数」を使います。CONCATENATE関数を使うと、文字列を結合して1つのセル内に表示できます。

## File Open

ブック「3-12」を開いておきましょう。

## 日付を計算して勤続年月を求める関数

関数

=CONCATENATE(DATEDIF(F4,\$G\$1,"y"),"年",DATEDIF(F4,\$G\$1,"ym"),"か月")

- ① セル【F4】の入社日からセル【G1】の本日の日付までの年数を求める
- ② セル【F4】の入社日からセル【G1】の本日の日付までの1年未満の月数を求める
- ③ ①で求めた年数と「年」、②で求めた月数と「か月」を結合して表示する

## 操作

- ① セル【G4】に「=CONCATENATE(DATEDIF(F4,\$G\$1,"y"),"年",DATEDIF(F4,\$G\$1,"ym"),"か月")」と入力します。

※セル【G1】には、本日の日付を求めるTODAY関数が入力されています。

※数式をコピーするため、本日の日付は常にセル【G1】を参照するように絶対参照にします。

※DATEDIF関数の単位と文字列は「」（ダブルクォーテーション）」で囲みます。

=CONCATENATE(DATEDIF(F4,\$G\$1,"y"),"年",DATEDIF(F4,\$G\$1,"ym"),"か月")						
A	B	C	D	E	F	G
1	社員名簿					2018/7/30 現在
2						
3						
4	管理番号	氏名	部署名	課名	入社日	勤続年月
5	195701	=CONCATENATE(DATEDIF(F4,\$G\$1,"y"),"年",DATEDIF(F4,\$G\$1,"ym"),"か月")				
6	198703	市村 翔平	営業部	第2営業課	1998/10/1	
7	199708	大塚 真由子	営業部	第1営業課	1999/10/1	
8	200709	栗 祐樹	営業部	第2営業課	2000/4/1	
9	202710	田村 由紀	総務部	人事課	2002/10/1	
10	204709	中村 晃彦	営業部	第1営業課	2004/4/1	
11	204712	井上 信一郎	製造技術部	開発課	2004/4/1	
12	206712	岡田 さつき	営業部	第1営業課	2006/10/1	
13	208703	野中 駿	製造技術部	開発課	2008/4/1	
14	209701	元村 藍子	営業部	第1営業課	2009/4/1	
15	210715	藤田 宏昌	営業部	第1営業課	2010/11/1	
16	212702	保科 健一	営業部	第2営業課	2012/4/1	
17	212704	北野 理子	総務部	経理課	2012/6/1	
18	214703	香田 信人	製造技術部	開発課	2014/4/1	
19	215710	石野 西沙	営業部	第1営業課	2015/2/1	

- ②「高木 一郎」の勤続年月が表示されます。  
 ※ここでは、本日の日付を「2018年7月30日」として計算しています。
- ③セル【G4】を選択し、セル右下の■（フィルハンドル）をダブルクリックします。
- ④数式がコピーされ、各社員の勤続年月が表示されます。

管理番号	氏名	部署名	課名	入社日	勤続年月
195701	高木 一郎	総務部	人事課	1995/8/1	22年11か月
198703	市村 翔平	営業部	第2営業課	1998/10/1	19年9か月
199708	大塚 真由子	営業部	第1営業課	1999/10/1	18年9か月
200709	栗 祐樹	営業部	第2営業課	2000/4/1	18年3か月
202710	田村 由紀	総務部	人事課	2002/10/1	15年9か月
204709	中村 晃彦	営業部	第1営業課	2004/4/1	14年3か月
204712	井上 信一郎	製造技術部	開発課	2004/4/1	14年3か月
206712	岡田 さつき	営業部	第1営業課	2006/10/1	11年9か月
208703	野中 駿	製造技術部	開発課	2008/4/1	10年3か月
209701	元村 藍子	営業部	第1営業課	2009/4/1	9年3か月
210715	篠田 宏昌	営業部	第1営業課	2010/11/1	7年8か月
212702	保科 健一	営業部	第2営業課	2012/4/1	6年3か月
212704	北野 理子	総務部	経理課	2012/6/1	6年1か月
214703	春田 信人	製造技術部	開発課	2014/4/1	4年3か月
215710	田中 西沙	営業部	第1営業課	2015/2/1	3年4か月

### Point シリアル値を確認する

「シリアル値」とは、Excelで日付や時刻の計算に使用されるコードのことで、1900年1月1日をシリアル値の「1」として1日ごとに「1」が加算されます。例えば、「2018年10月1日」は「1900年1月1日」から43374日目なので、シリアル値は「43374」になります。表示形式を「標準」に戻すと、シリアル値を確認できます。

### Point DATEDIF関数の単位

DATEDIF関数で利用できる単位には、次のようなものがあります。

単位	意味	例
"y"	期間内の満年数	=DATEDIF("2017/1/1", "2018/2/5", "y") → 1
"m"	期間内の満月数	=DATEDIF("2017/1/1", "2018/2/5", "m") → 13
"d"	期間内の満日数	=DATEDIF("2017/1/1", "2018/2/5", "d") → 400
"ym"	1年未満の月数	=DATEDIF("2017/1/1", "2018/2/5", "ym") → 1
"yd"	1年未満の日数	=DATEDIF("2017/1/1", "2018/2/5", "yd") → 35
"md"	1か月未満の日数	=DATEDIF("2017/1/1", "2018/2/5", "md") → 4